

第1章 策定の背景

(1) 計画策定の背景

津久見市は大分県南東部に位置しており、JR津久見駅を中心に発展してきましたが、高齢化率31.1%の超高齢化社会であり、お年寄りや児童などの交通弱者のために路線バス、船舶及び鉄道といった地域交通はなくてはならない重要な移動手段であると位置づけられます。

しかし近年、目覚しく進展し続けているモータリゼーションに加え、少子高齢化により地域交通の利用者が減少し、減便や路線撤退など相次いでおり、市内に地域交通がない交通空白地帯が点在しています。

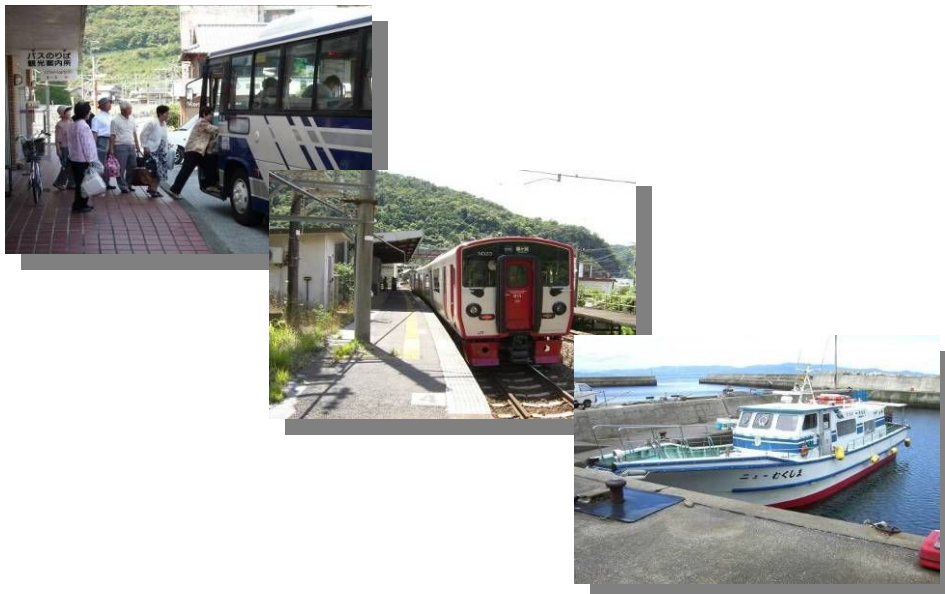
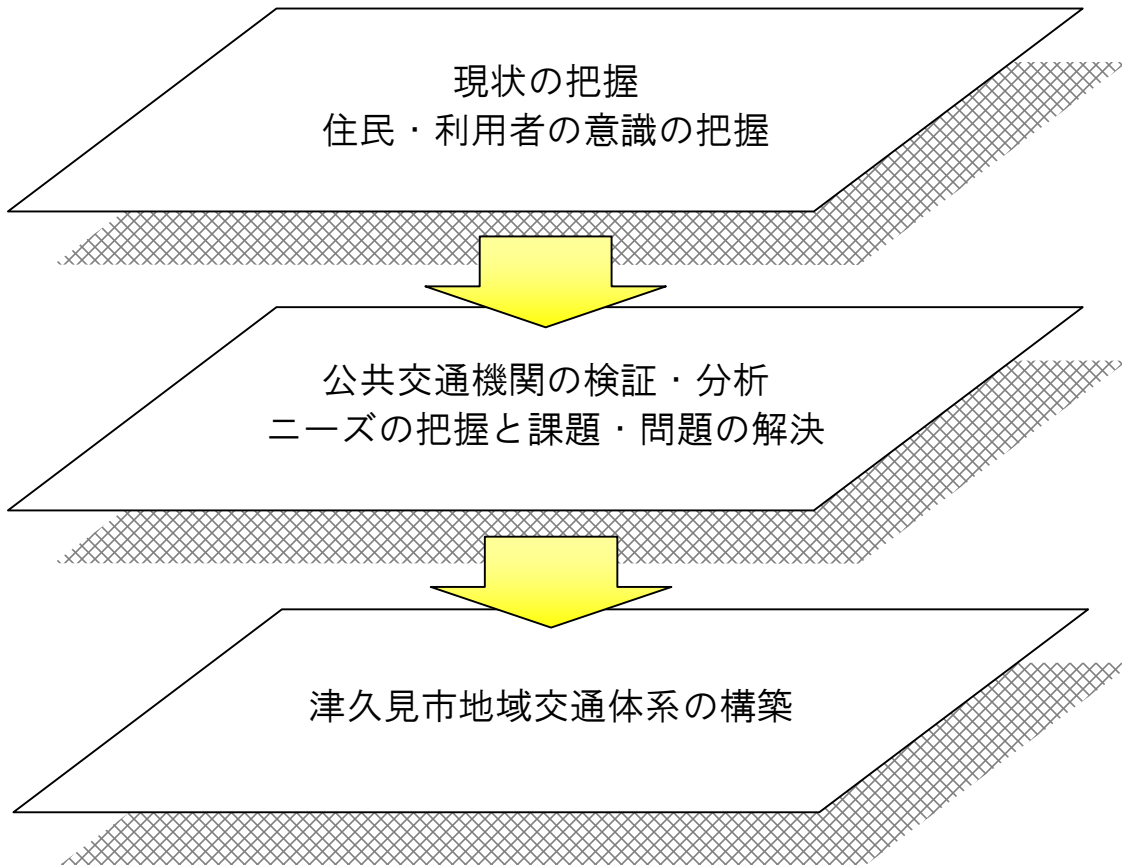
これまでの経緯の概要としまして、平成17年3月31日に有限会社やま丸が運航していた四浦航路が廃止となり、その代替措置として地元との協議により、間元便（荒代トンネル経由）が新設されました。（平成17年度補助額は568,287円）。

しかし少子高齢化やモータリゼーションの進展により、依然として路線バスの利用客が減少し、本市を運行する臼津交通株式会社も平成16年より赤字経営に陥ったため、平成18年度からは協議の結果、楠屋便及び赤崎便の2路線を補助路線として追加し、3,000千円の範囲内で3路線に補助を行っています。

地域公共交通の衰退が著しい中、市は平成19年1月30日に津久見市バス対策検討委員会を立ち上げ、同年6月には津久見市中央病院来訪者に対して1ヵ月間、アンケート調査を行い、来訪者の路線バスの利用状況を調査・検証を行いました。また平成20年1月29日には四浦航路廃止に伴う小荷物運送協定を臼津交通、商業協同組合及び津久見市が締結し、路線バスによる四浦地区への小荷物の運送を開始しました。さらに平成20年2月に地域公共交通総合連携計画策定のため、津久見市地域公共交通活性化協議会を立ち上げ、今日に至ります。

(2) 計画策定の調査及び分析のフロー

以下の手順にて調査及び分析を行いました。



第2章 津久見市の地域公共交通の現況

(1) 地勢・位置

～津久見市役所HPより～

本市は、県の中心都市大分市から南東に約30キロメートルの豊後水道に面した海沿いの都市であり、北に臼杵市、南に佐伯市と境を接している。市域は、東西28キロメートル、南北12キロメートル、総面積は79.51平方キロメートルである。豊後水道に面した津久見湾の湾口部を囲うようにして半島部の典型的なリアス式海岸が伸び、それをさら



さらに鎮南山、姫岳、碁盤ヶ岳、彦岳といった600～700メートルの山地が三方から馬蹄型に囲んでいる。島しょ部は、南の四浦半島の延長に保戸島、北の長目半島の延長に地無垢島、沖無垢島と合計3島がある。美しいリアス式の海岸線が、山地斜面のみかん栽培の段々畑とコントラストをなしており、ブルーとオレンジの風光明媚な景観を構成している。

市街地を形成する平坦地は、山地が海に迫っているため、青江川、津久見川の谷底平野と海岸線の小さな平地に限られている。津久見港が津久見湾の湾奥部に位置し、全体に海底が深く天然の良港となっている。日豊本線と津久見港に挟まれた石灰石採掘場（水晶山）から南西へ胡麻柄山、碁盤ヶ岳を経て臼杵市に至るまで幅約1キロメートル、長さ約10キロメートルの石灰石の巨大な岩体が横たわっているが、石灰石の採掘による地形の人工改変により、日々その形態を変えている。

第2章 津久見市の地域公共交通の現況

保戸島の概況

保戸島は津久見港から北東約 14km に位置し周囲約 4km、面積 0.86 km²、島の人口は 1,283 人（平成 18 年版視統計書より）が住んでいる、マグロの遠洋漁業の重要な基地であります。島には平地がほとんどないため、3 階建てのコンクリート造りの家屋が傾斜地に密集して立ち並んでおり、独特な町の風景を醸し出しています。そのため保戸島の集落は社団法人全国漁港漁場協会の「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」に選ばれています。



無垢島の概況

無垢島は津久見港から約 16km 沖に浮かぶ島で、周囲 3km の島です。無垢島は人の住んでいる地無垢島と、無人島の沖無垢島の 2 つありますが、2 つの島を総称して無垢島と呼ばれています。島の人口は 72 人（平成 18 年版視統計書より）で、島にある無垢島小学校・中学校の生徒数は 8 人となっています。

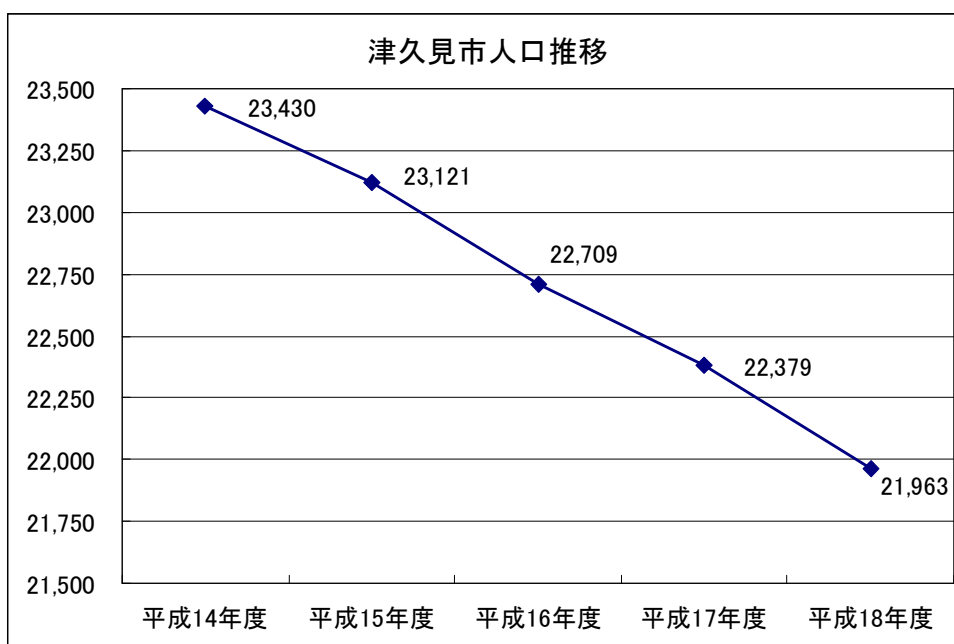


第2章 津久見市の地域公共交通の現況

(2) 人口構造

本市の人口は減少傾向にあり、年々300人～400人のペースで減少しており、少子高齢化が顕著に現れています。

地区別人口一覧を見ますと、千怒、中田、無垢島地区が平成17年度と平成18年度を比較しますと人口が増えています。市全体から見ますと人口は減少しています。



平成14年度から平成18年度の地区別人口一覧

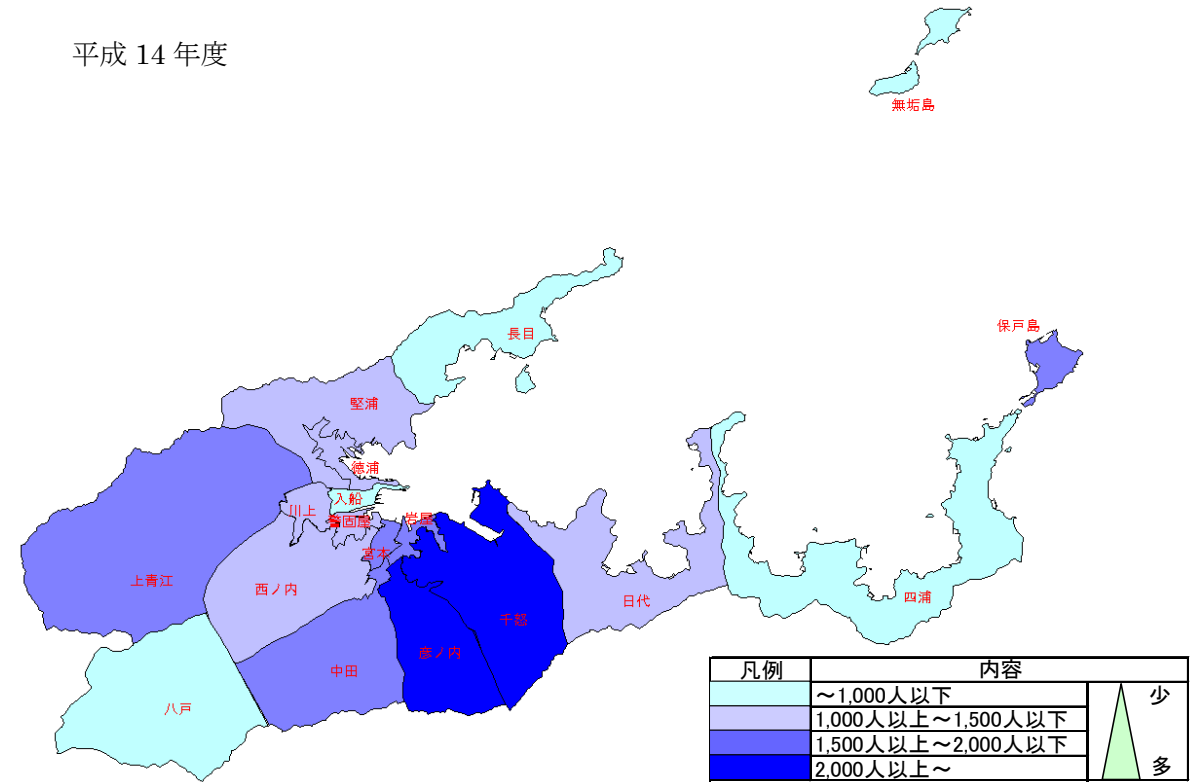
地区	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
千怒	2,673	2,680	2,678	2,653	2,670
岩屋	1,551	1,546	1,493	1,479	1,476
宮本	1,960	1,928	1,917	1,902	1,875
彦ノ内	2,495	2,454	2,439	2,448	2,423
中田	1,551	1,565	1,521	1,509	1,514
西ノ内	1,237	1,216	1,184	1,173	1,158
八戸	20	20	20	19	18
警固屋	1,367	1,325	1,310	1,285	1,202
入船	569	572	548	543	515
川上	1,301	1,265	1,249	1,228	1,202
上青江	1,961	1,968	1,941	1,880	1,850
徳浦	1,261	1,252	1,260	1,241	1,221
堅浦	1,019	978	950	931	902
長目	510	548	535	543	537
無垢島	74	72	76	70	72
日代	1,340	1,301	1,267	1,222	1,182
四浦	958	936	902	892	863
保戸島	1,583	1,495	1,419	1,361	1,283
計	23,430	23,121	22,709	22,379	21,963

第2章 津久見市の地域公共交通の現況

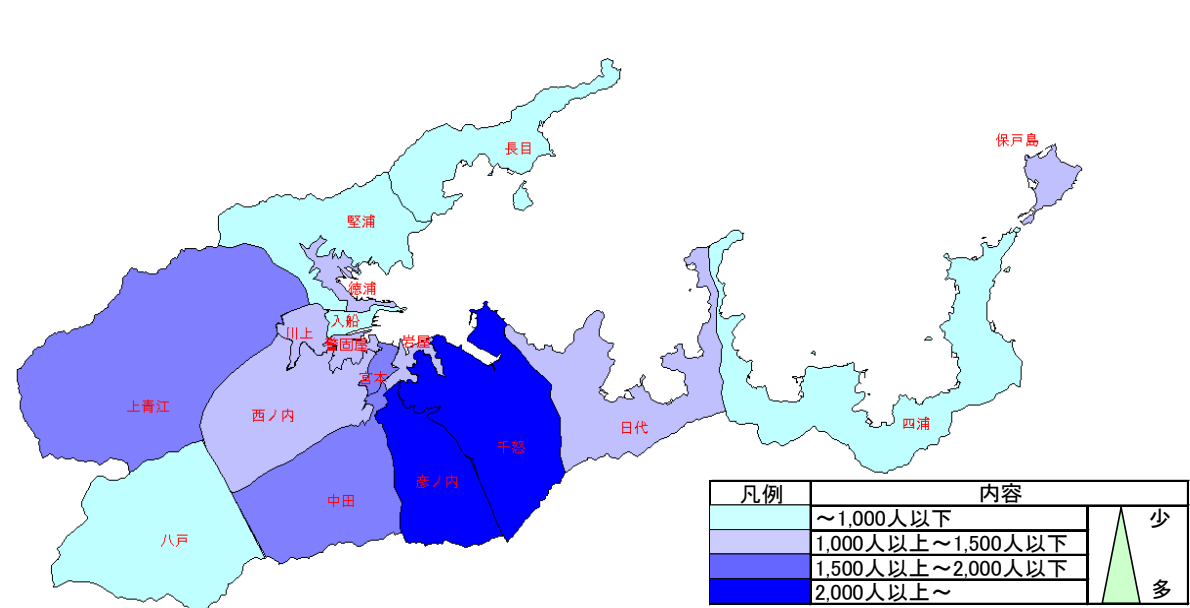
①地区別の人口

地区別の高齢者数を表しており、岩屋、堅浦、保戸島地区の人口減少が伺うことができます。

平成 14 年度



平成 18 年度



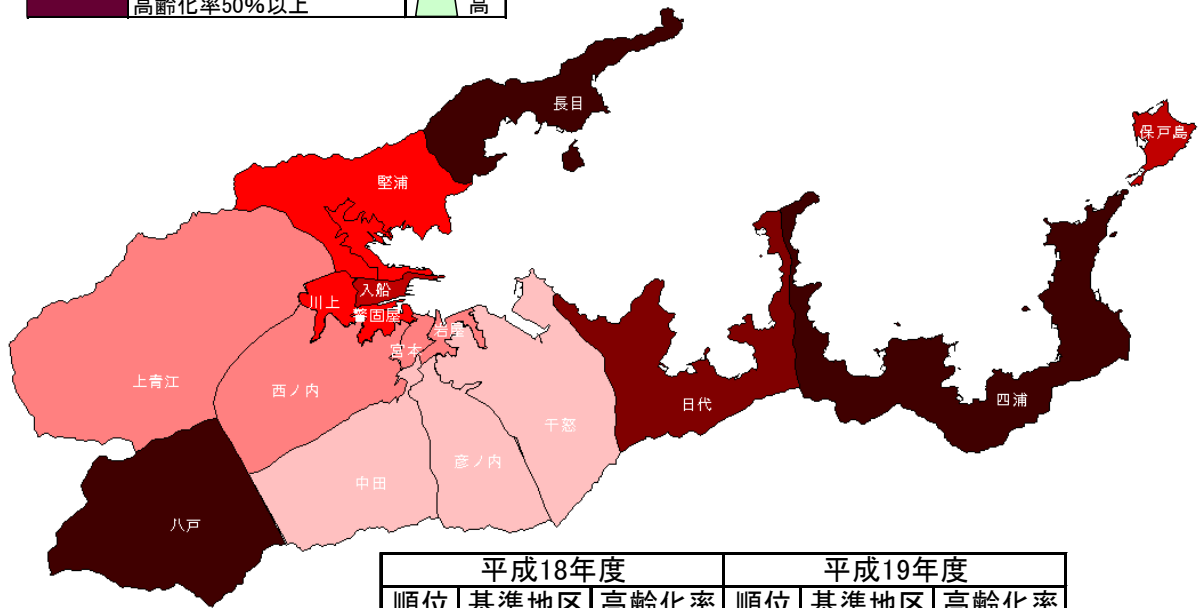
第2章 津久見市の地域公共交通の現況

②地区別の高齢化率

高齢化率が64.7%を越える八戸地区を初め、津久見市は超高齢社会を迎えています。

平成19年度

凡例	内容	
	高齢化率25%以下	
	高齢化率25%以上30%以下	
	高齢化率30%以上35%以下	
	高齢化率35%以上40%以下	
	高齢化率40%以上50%以下	
	高齢化率50%以上	



平成18年度			平成19年度		
順位	基準地区	高齢化率	順位	基準地区	高齢化率
1	八戸	61.1%	1	八戸	64.7%
2	四浦	54.0%	2	四浦	54.8%
3	長目	51.6%	3	長目	51.1%
4	無垢島	45.8%	4	無垢島	47.9%
5	日代	42.6%	5	日代	44.4%
6	保戸島	37.5%	6	保戸島	38.5%
7	入船	33.4%	7	入船	35.6%
8	川上	33.0%	8	徳浦	33.2%
9	徳浦	32.8%	9	堅浦	33.0%
10	堅浦	32.3%	10	川上	32.4%
11	警固屋	30.6%	11	警固屋	31.4%
12	宮本	28.8%	12	西ノ内	29.7%
13	上青江	28.3%	13	宮本	29.4%
14	西ノ内	28.2%	14	上青江	28.5%
15	岩屋	25.9%	15	岩屋	28.1%
16	中田	24.0%	16	中田	24.1%
17	彦ノ内	23.5%	17	彦ノ内	24.0%
18	千怒	21.2%	18	千怒	22.1%

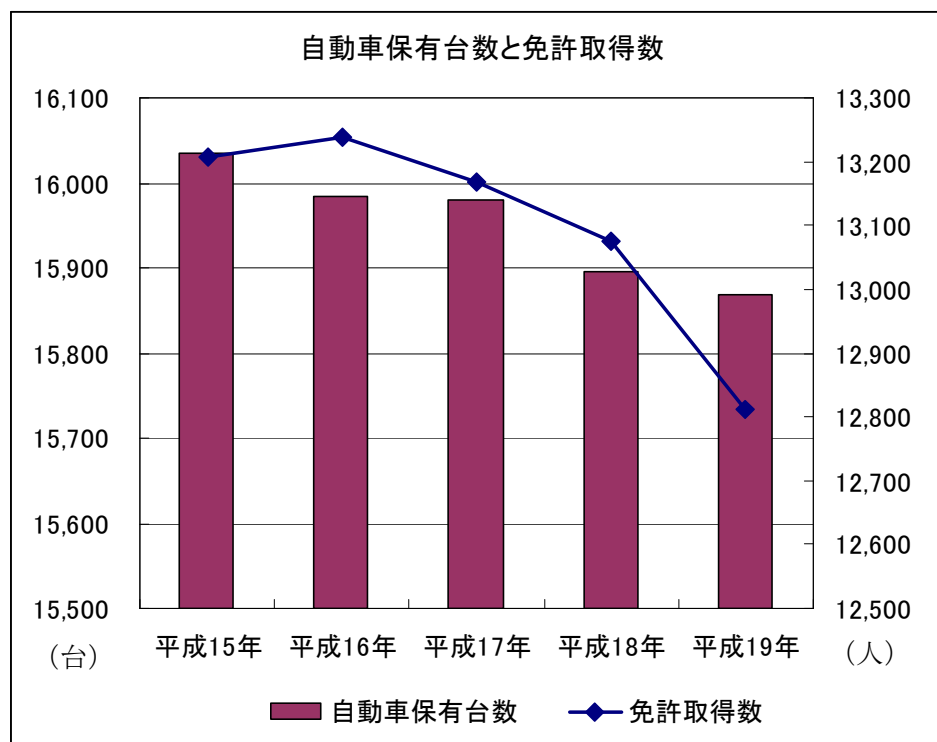
※赤字は平成19年度津久見市全体の高齢化率(31.1%)を上回っている地区

※一般的に高齢化率7%を超えると「高齢化社会」、14%を超えると「高齢社会」、21%を超えると「超高齢社会」と指標されています。

第2章 津久見市の地域公共交通の現況

③自動車保有状況

進展するモータリゼーション社会の中、市内における自動車保有台数が減少している理由として、少子化による新規免許証取得者数の減少、また市外への人口流出による減少などが考えられます。



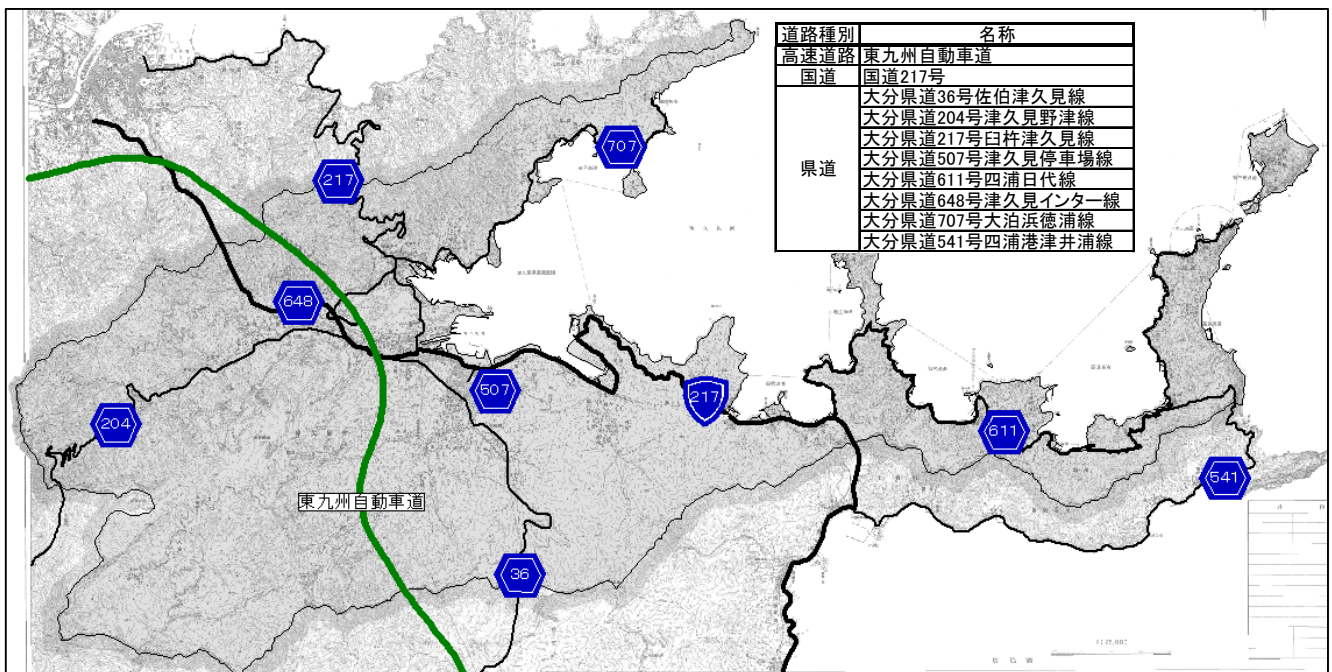
第2章 津久見市の地域公共交通の現況

(3) 道路現況

市内には高速自動車道（東九州自動車道）が整備されており、北は大分市・福岡市、南は佐伯市と結ばれています。また市内を横断するように国道217号線が走っており、本市と臼杵市、佐伯市が結ばれており、市外への移動は整備されています。しかし県道レベルで見ますと、本市の地形的理由により幅員の狭い道路や急な勾配のある道路があります。

① 県道707号線、611号線

リアス式の海岸沿いを通り、山間部も海際まで迫り出しているため、幅員が非常に狭小な箇所もあります。また611号線の通る四浦半島は山越えをする道路が多く、急勾配の斜面を路線バスが運行しています。



第2章 津久見市の地域公共交通の現況

(4) 公共利便施設の現況

①通院移動状況

本市には津久見中央病院をはじめ、いくつかの個人医院や診療所があります。特に津久見中央病院に通院している住民が多く、路線バスの利用者のほとんどが津久見中央病院へ移動しています。

市民が利用する市内及び市外の主な医療機関は以下の通りです。

津久見市内の主な医療機関

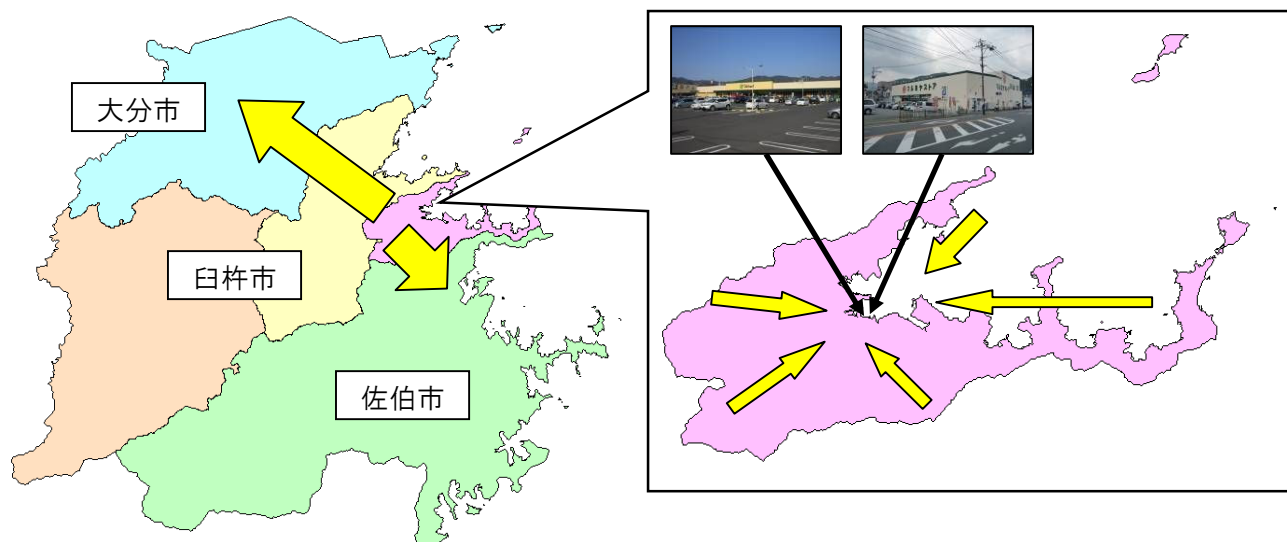
病院・医院名	主な診療科目	住所
秋岡医院	内科	徳浦本町7-3
姫野胃腸科クリニック	胃腸内科・外科/消化器内科・外科	大字千怒6045-5
津久見中央病院	内科/外科/整形外科/小児科/呼吸器科/皮膚科/耳鼻咽喉科/心療内科/泌尿器科	大字千怒6011
小宅医院	小児科/内科	港町10-24
小田クリニック	外科/循環器内科・外科/小児科/整形外科/内科/リハビリテーション科	港町9-3
大石医院	小児科/内科/リウマチ科	上宮本町22-14
加納医院	眼科	中央町3-14
後藤医院	外科	中央町30-23
つくみクリニック	医院・診療所/胃腸内科・外科/外科/消化器内科・外科/整形外科/内科	宮本町2-23
深江医院	循環器内科・外科/消化器内科・外科/小児科/胃腸内科・外科/内科/呼吸器内科・外科	宮本町9-19
医療法人池邊整形外科	形成外科/整形外科	大字津久見浦福3825-72
金田医院	小児科/内科	高洲町19-10
薬師寺医院	産婦人科/小児科/内科/婦人科	入船西町11-24
保戸島診療所		

津久見市外の主な医療機関

病院・医院名	主な診療科目	住所
大塚病院	内科/外科/整形外科/小児科/呼吸器科/皮膚科/耳鼻咽喉科/心療内科/泌尿器科	臼杵市大字臼杵180
長門記念病院	内科/呼吸器科/消化器科/循環器科/神経内科/心療内科/アレルギー科/リウマチ科など	佐伯市鶴岡町1-11-59
西田病院	内科/消化器科/胃腸科/循環器科/小児科/外科/整形外科/脳神経外科/産婦人科など	佐伯市大手町3-3-24
大分岡病院	呼吸器科/消化器科/循環器科/小児科/神経内科/外科/整形外科/形成外科など	大分市西鶴崎3-7-11
大分県立病院	内科/呼吸器科/消化器科/循環器科/小児科/精神科/神経内科/外科/脳神経外科など	大分市大字豊饒476
大分赤十字病院	内科/循環器科/小児科/リウマチ科/外科/整形外科/脳神経外科/産婦人科/眼科など	大分市千代町3-2-37

②買い物移動状況

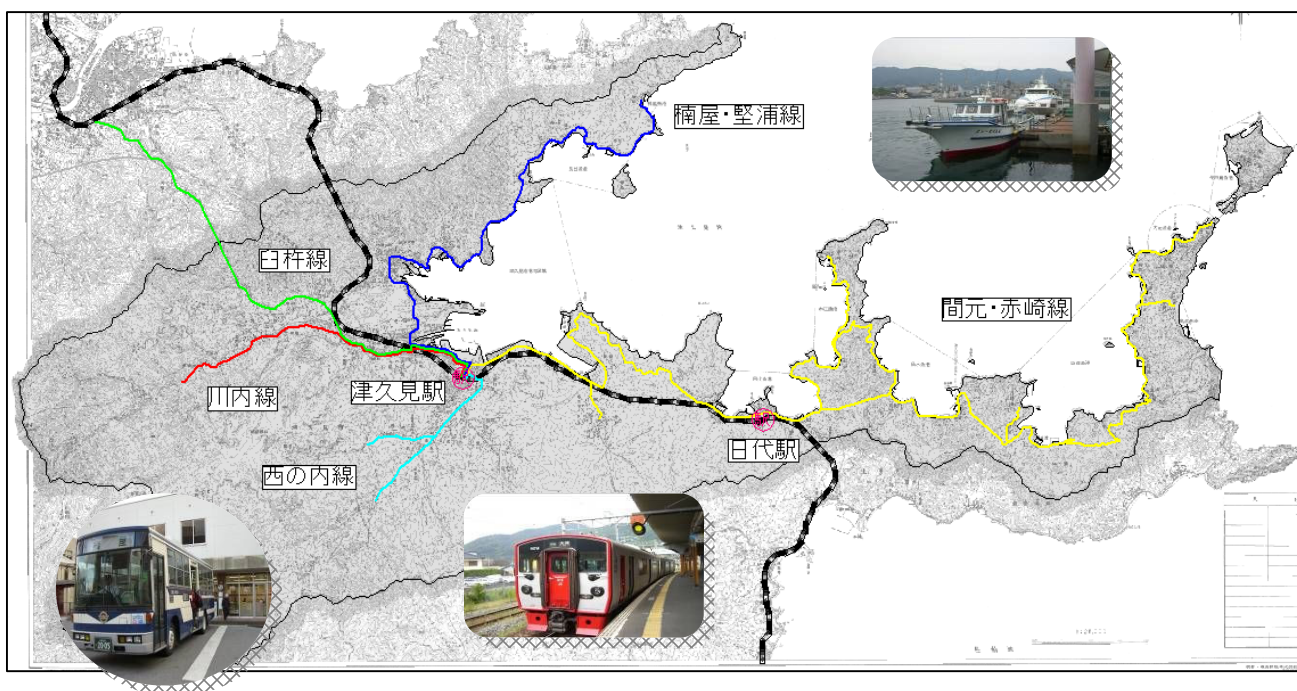
市民の買い物は主に中心部にある商業施設で行うことが多く、その際の移動手段の多くは自家用車に依存している状況です。また大分市や臼杵市、佐伯市にある郊外型ショッピングセンターへ訪れる住民もいます。



第2章 津久見市の地域公共交通の現況

(5) 市内交通の状況

本市には JR 九州の日豊本線が通っていると同時に、津久見駅を中心に各集落へ向かう臼津交通株式会社が運行する路線バスが5路線あります。また津久見港からは離島航路として、保戸島、無垢島へ向かう船舶が有限会社やま丸及び本市直営により運航しています。

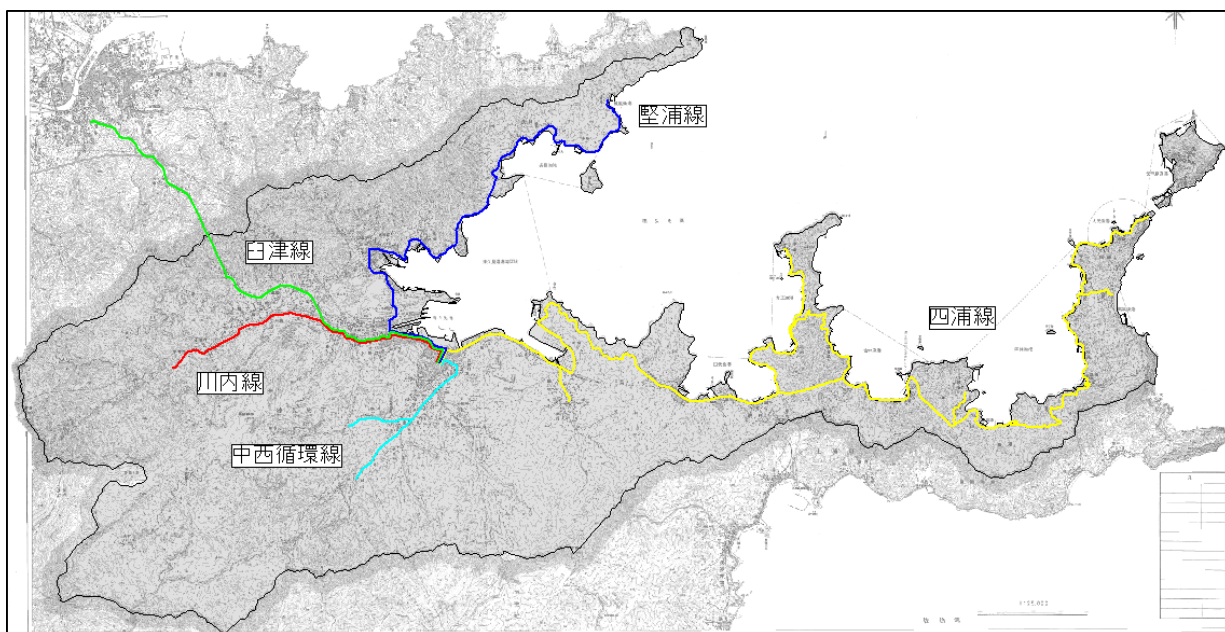


第2章 津久見市の地域公共交通の現況

(6) 路線バスの状況

現在、本市においては民間路線バスが臼津交通株式会社により 5 路線（15 系統、うち 3 系統が補助事業系統）運行しています。それぞれ津久見駅を起点とし、各集落へ向かう運行体系になっています。5 路線のうち 4 路線が津久見市内のみを運行していますが、1 路線が本市と隣接する臼杵市を結んでいます。本市は地形的な条件からリアス式の海岸線を運行する箇所が多くあり、特に四浦線、楠屋線は車両の離合など運転上危険を伴う可能性があります。

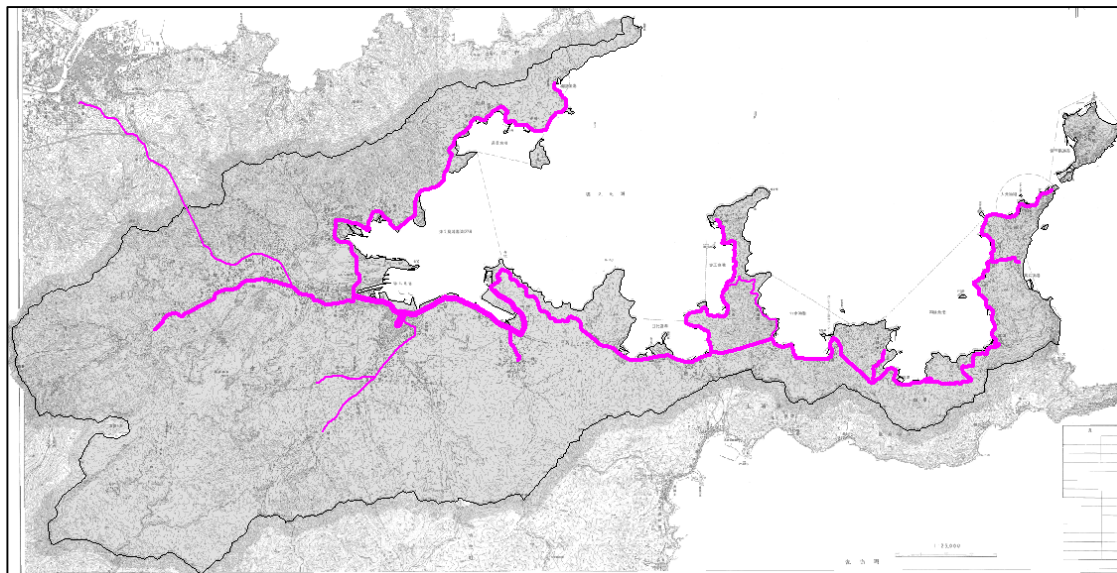
臼津線は津久見市と臼杵市を結ぶ広域的な路線であり、津久見市民が臼杵市にある病院へ通院するために利用しています。残りの川内線及び中西循環線は津久見駅と市住宅地を結ぶ路線であり、どれも住民にとって必要な路線となっています。



第2章 津久見市の地域公共交通の現況

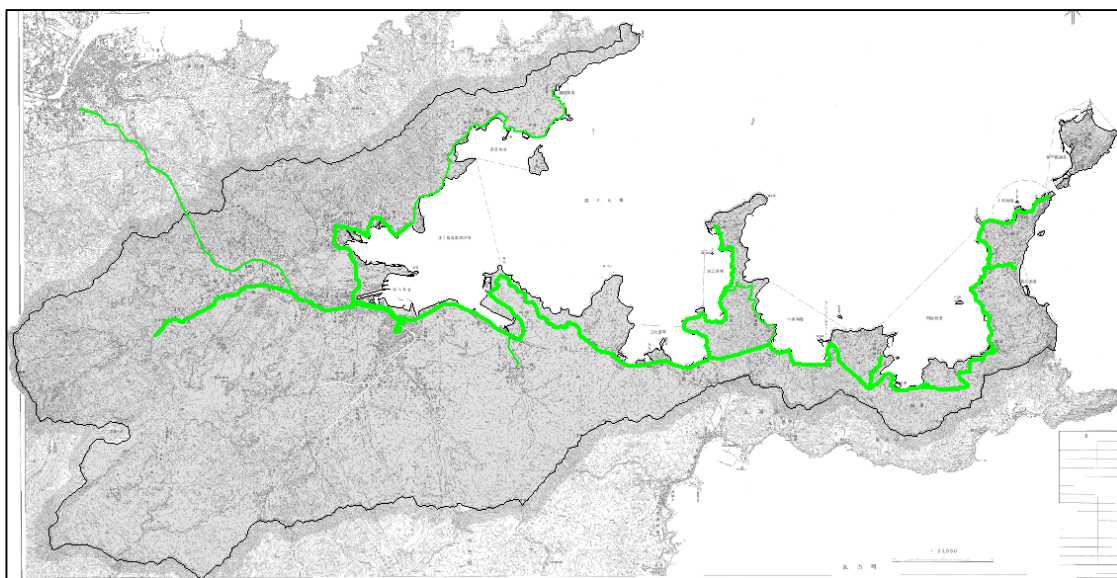
①平日の路線バス運行状況

市中心部（津久見駅～運動公園）はほとんどの路線バスが経由または終点としていることから、便数は確保されています。



②土曜日の路線バス運行状況

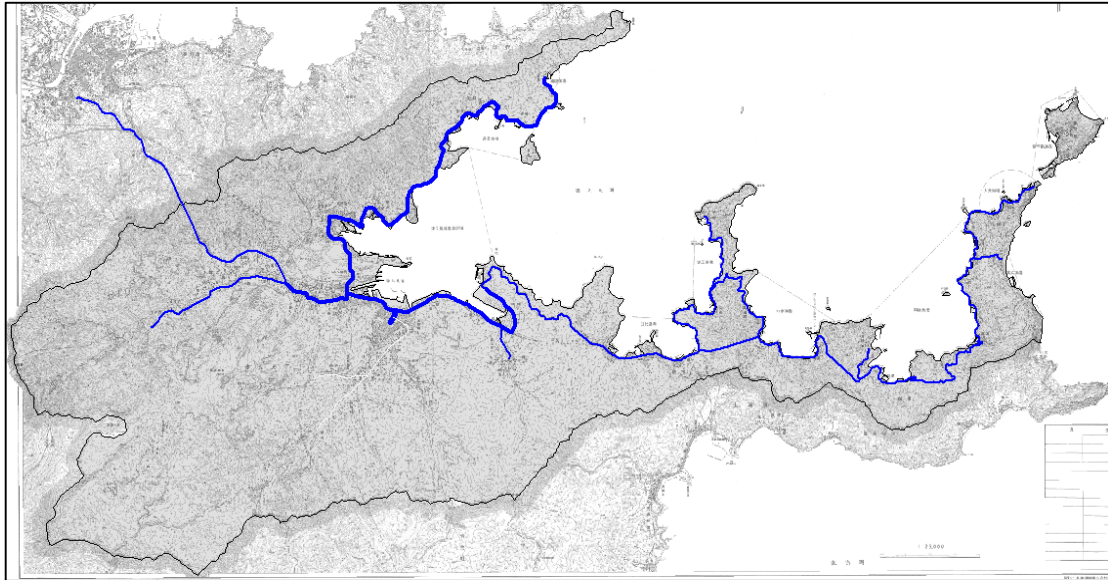
中西循環線は平日1便のみの運行であり、土日祝日の運行はありません。



第2章 津久見市の地域公共交通の現況

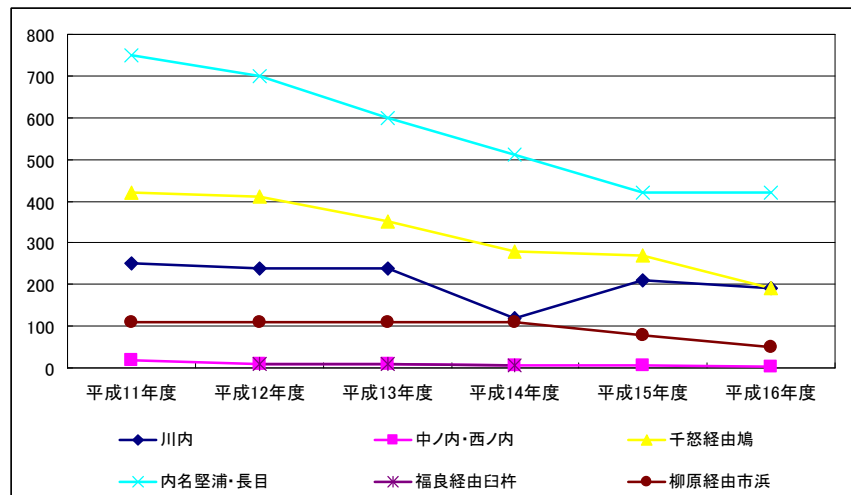
③日曜日及び祝祭日の路線バス運行状況

中西循環線は平日1便のみの運行であり、土日祝日の運行はありません。



④路線別の利用状況

中西循環線（中ノ内・西ノ内）は1日1便の運行であり、利用者にとって非常に不便な路線です。



路線名	年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度
川内		250	240	240	120	210	190
中ノ内・西ノ内		20	10	10	5	5	2
千怒經由鳩		420	410	350	280	270	190
内名堅浦・長目		750	700	600	510	420	420
福良經由臼杵			10	10	5	休止	休止
柳原經由市浜		110	110	110	110	80	50
計		1,550	1,480	1,320	1,030	985	852

※資料: 臼津交通 単位: 百人

第2章 津久見市の地域公共交通の現況

本市の路線バスを系統別に検証しますと、15系統のうち10系統が赤字運行に陥っています。全系統の経常損益は¥-6,026,065となっています。

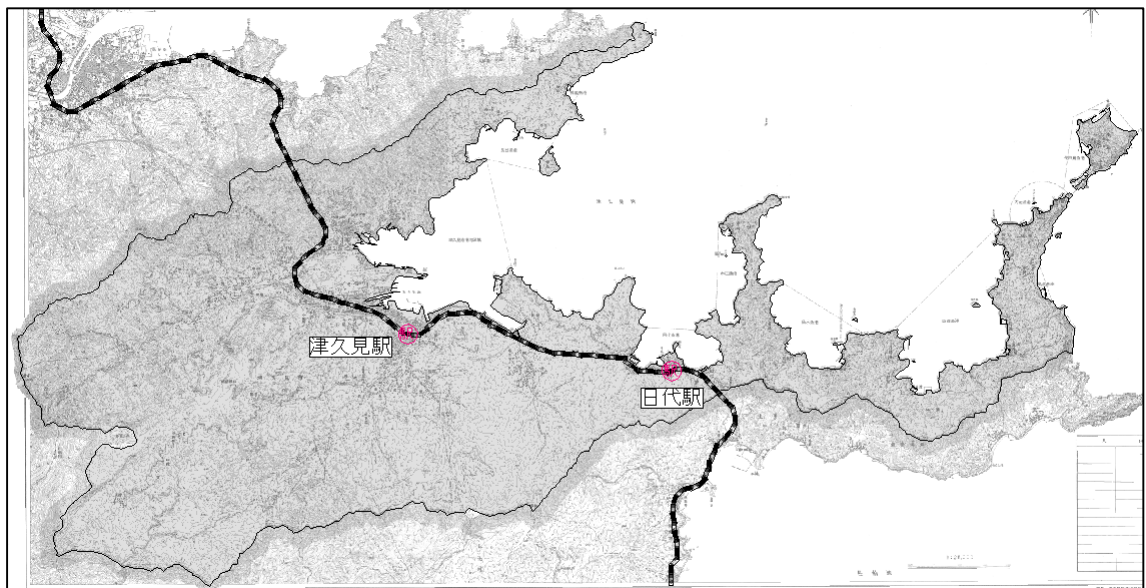
運行系統			系統キロ	運行回数			年間走行キロ	輸送人員		平均乗車密度	経常収益(円)	経常費用(円)	経常損益(円)
起点	主な経過地	終点		平日	土曜	日祝		年間	平日1便当たり				
臼杵市役所	福良	津久見駅	13.3	0.5	0.0	0.0	3,111.5	185	1.0	0.0	¥14,707	¥494,759	¥-480,052
市浜	柳原橋	津久見駅	13.8	3.5	4.0	3.0	30,450.4	4,115	2.4	0.8	¥1,327,355	¥4,841,918	¥-3,514,563
津久見駅		楠屋	11.9	4.0	4.0	3.0	32,638.8	13,771	6.1	1.8	¥3,075,457	¥5,189,895	¥-2,114,438
津久見駅		久保浦団地	5.1	3.5	3.5	5.0	13,430.9	11,455	5.1	2.6	¥2,461,143	¥2,135,647	¥325,496
津久見駅		川内	6.1	5.0	4.0	1.5	18,598.9	5,769	2.5	1.0	¥1,229,040	¥2,957,411	¥-1,728,371
津久見駅		尺間登山口	3.5	1.0	0.0	0.0	1,473.5	159	0.5	0.3	¥51,459	¥234,301	¥-182,842
尺間登山口	西の内	津久見駅	6.5	1.0	0.0	0.0	2,736.5	797	2.5	0.5	¥129,103	¥435,130	¥-306,027
津久見駅	赤崎	間元	38.9	2.0	2.0	2.0	51,035.4	15,788	15.0	4.6	¥8,409,138	¥8,115,138	¥294,000
津久見駅	荒代トンネル	間元	30.6	1.5	1.5	0.0	25,842.6	6,897	12.0	4.0	¥3,730,375	¥4,633,427	¥-903,052
津久見駅	赤崎	遊魚センター、赤碓	22.1	2.0	1.0	0.0	19,369.2	1,680	2.5	0.6	¥565,958	¥2,539,799	¥-1,973,841
久保浦団地		運動公園	9.5	1.5	1.5	0.0	8,114.4	11,119	16.3	4.3	¥1,847,732	¥1,290,270	¥557,462
川内		運動公園	10.5	1.0	0.5	0.5	6,344.0	7,156	15.5	3.7	¥1,187,316	¥1,008,759	¥178,557
川内	千怒	運動公園	11.8	1.0	0.5	0.0	6,360.2	4,895	12.0	2.8	¥911,549	¥1,011,335	¥-99,786
津久見駅		運動公園	4.4	1.5	1.5	0.0	3,792.6	3,782	5.7	2.6	¥711,798	¥603,061	¥108,737
津久見駅	千怒	運動公園	5.7	1.0	1.0	0.5	3,756.3	1,995	4.0	1.5	¥415,329	¥597,289	¥-181,960
津久見市内運行系統計							193,493.3	85,263.0			¥24,725,397	¥30,751,462	¥-6,026,065

※平成18年度臼津交通路線バス系統資料より

第2章 津久見市の地域公共交通の現況

(7) 鉄道の状況

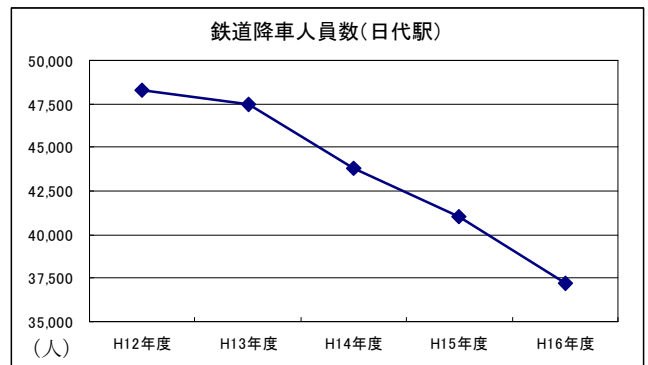
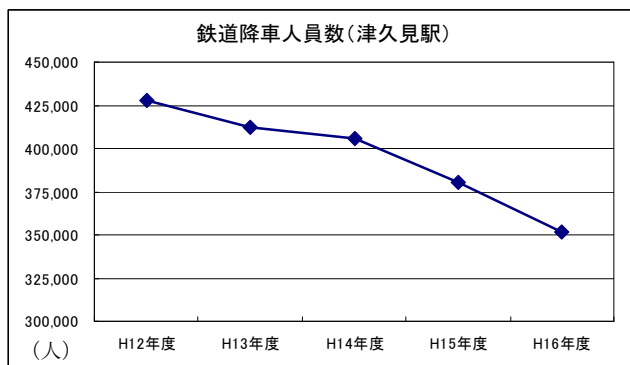
本市にはJR九州の日豊本線が通っており、津久見駅と日代駅の2つの駅があります。利用者は主に朝夕に集中し、市外への学校及び職場へ向かう住民の利用となっています。特急列車は津久見駅を全便停車し、大分市や福岡市、延岡市や宮崎市とつながっています。また日代駅は昭和59年11月1日より無人化となっています。



津久見駅		H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度
乗車人員	普通	140,408	135,286	125,015	119,066	108,145
	定期	287,021	277,538	278,197	261,390	242,154
	計	427,429	412,824	403,212	380,456	350,299
降車人員		427,820	412,069	405,948	380,734	351,482

日代駅		H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度
乗車人員	普通	21,583	20,233	18,543	18,502	15,346
	定期	29,693	29,428	27,631	26,564	24,612
	計	51,276	49,661	46,174	45,066	39,958
降車人員		48,302	47,496	43,816	41,034	37,199

※資料:JR九州大分支社 単位:人



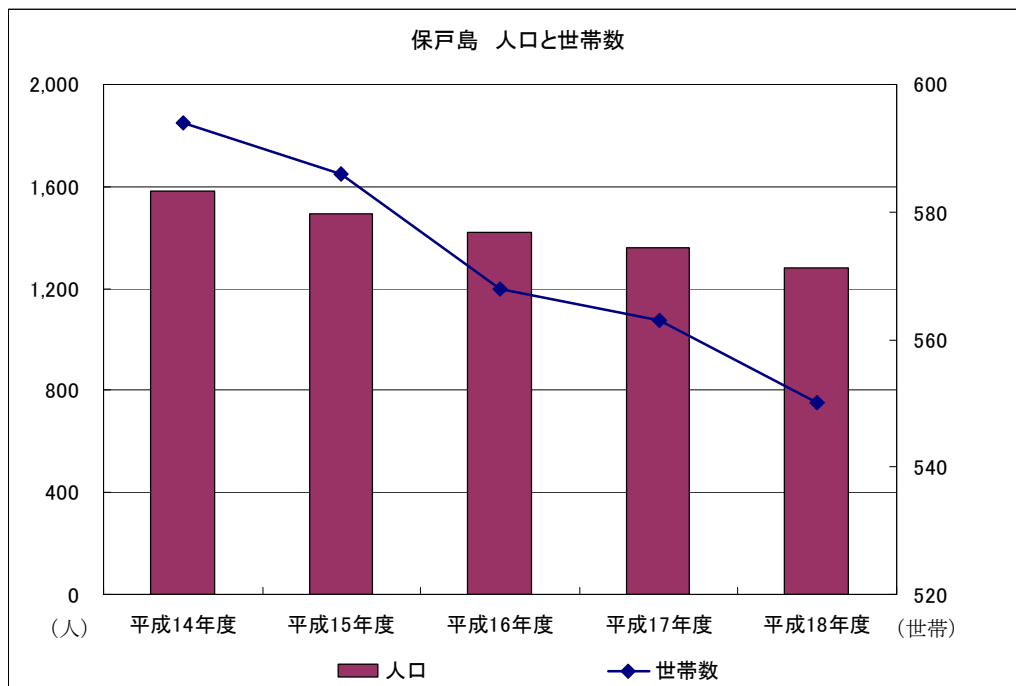
第2章 津久見市の地域公共交通の現況

(8) 離島航路の状況

離島航路の現況

平成20年度現在、津久見市において2つの離島航路が就航しています。1つ目は有限会社やま丸が運航する津久見港と保戸島を結ぶ航路です。現在、毎日保戸島と本土を7往復しています。2つ目は津久見市が直営で運航する津久見港と無垢島を結ぶ航路です。島と本土を（月～土曜日1往復、水曜日及び日祝祭日2往復）結び、島民の重要な生活航路となっています。

しかし近年、急激に進展しつつある少子高齢化を受け、離島航路の利用の確保が充分でなく、その維持にも多額の費用がかかっており、早急な対応が迫られています。



出典：平成18年版 津久見市統計書

第2章 津久見市の地域公共交通の現況

①保戸島の離島航路

現在、津久見港と保戸島を結ぶ離島航路は有限会社やま丸によって、島と本土を毎日7往復運航されています。料金については大人片道840円（子供420円）で、およそ片道25分で島と本土を結んでいます。また船舶もマリンスター（77t、定員150名）とニューやま2号（43t、定員95名）の2隻が就航しています。

しかし過疎化や少子化を受け、年々利用者が減少しており、保戸島自体の人口も減少している状況で、今後ますますの利用者減が予想されます。また船舶自体の老朽化も叫ばれており、乗下船時の安全性、運航時の快適性など、船舶のバリアフリーが望まれています。さらには近年の原油高の高騰を受け、利用者の減少と合わせて離島航路の経営を圧迫しています。

船舶のバリアフリー検討箇所



乗下船時にスロープの段差が障害となって高齢者や大きな荷物を抱えた利用者の安全で快適な利用の妨げになっています。
また船内には車イス専用の客席がありません。

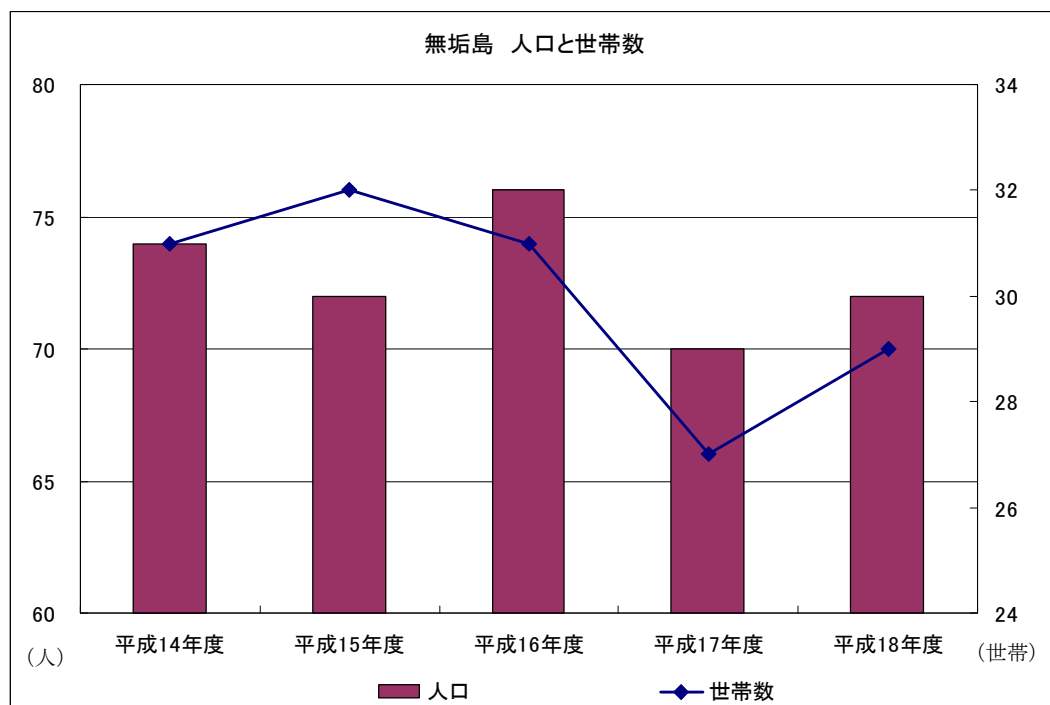


第2章 津久見市の地域公共交通の現況

②無垢島の離島航路

本航路は本市が運営しており、無垢島と津久見港（航路距離 16 km）を 1 日 1 便（水曜日・日曜祝日は 2 便）運航しており、必要に応じて貸切の運航も行っています。運航船舶である「ニューむくしま」（13 トン）は島民の生活用水（飲料水）運搬船であり、かつ救急船も兼ねていますが、無垢島と本土を結ぶ唯一の航路に対して、便数や船舶の旅客定員（定員 12 名）が少ないため、利用者にとっては不便な状況が生じています。また船舶は旅客の輸送は運航時刻に限りませんが、島民の郵便物や宅配便の貨物輸送は不定期に輸送しています。さらに保戸島航路の船舶と同様に、船舶の老朽化も進んでおり、乗下船時の安全性、運航時の快適性など、船舶のバリアフリーが望まれています。

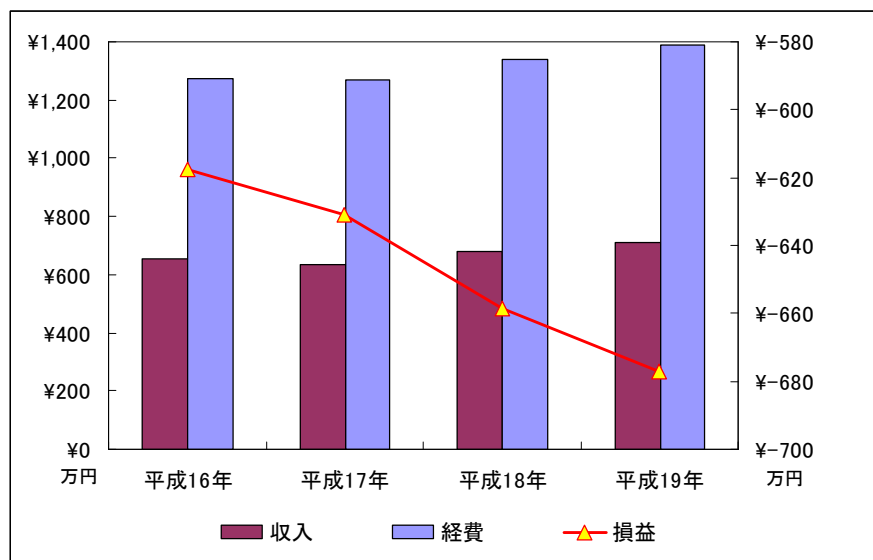
また島内には診療所などの医療機関がなく、救急医療については島民の助け合いにより漁船で津久見港へ運送し、港で待ち受けている救急車で病院へ搬送している状況です。



出典：平成 18 年版 津久見市統計書

第2章 津久見市の地域公共交通の現況

無垢島航路の経営状況



■経費推移

年次	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
収入	¥6,550,970	¥6,364,040	¥6,813,440	¥7,117,740
経費	¥12,727,242	¥12,671,960	¥13,399,943	¥13,890,574
損益	¥-6,176,272	¥-6,307,920	¥-6,586,503	¥-6,772,834